

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

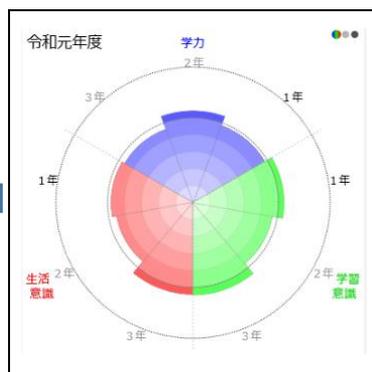
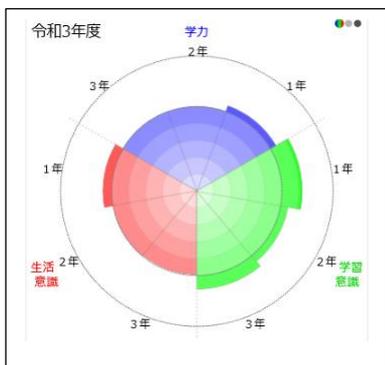
学校経営中期取組目標	
○ 「チーム南戸塚」として組織的な学校運営を行い、「誰もが・安心して・豊かに」生活できる学校づくりを目指します。	
・ 生徒、保護者、地域が参画する学校評価を実施し、根拠に基づいた改善を重ねます。	
・ 生命を大切にすることを第一に考えた、安心、安全な学校づくりを目指します。(体)	
・ いま求められる力を理解し、参加型の授業を実践しつつ学力向上に努めます。(知)	
・ 主体的な活動を支援し、自尊感情を高めます。(徳)	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標	具体的取組
授業改善		・ 学習の基礎・基本を身につけ、それらをもとに活用・探究していく学習力を培うための意思を育む。 ・ 自律的・主体的に学び続けるための意欲を高める。	・ 学習指導要領の趣旨に基づく実践方法や、効果のあった学習形態などについてのまとめを教科ごとに作成し、研修会で発表し、相互に研究を深める。特に情報端末機器の利用について研修を積む。 ・ 教科横断的に取り組む内容を再構成し、「総合的な学習の時間」の充実を図る。従来のキャリア教育のほかに、柱となる取り組み実践を積み上げていく。
担当	学習指導部 教科会		

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



左図は令和3年度(4月)と令和元年度(2月)の結果です。令和2年度の調査を実施していませんが、令和3年度は4月に行っていますので、令和2年度の学力などははかっていると捉えることができます。調査より、全学年で学習意識の高さを見ることができます。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：よく努力している。今までより、さらに日本語の大切さに気づけるように授業を工夫する。また、文学的文章を読み込むことに重点を置き指導をしていく。
- 社会科：グループワークなどに制限がかかる中で、ICT を利用し様々な資料を活用しながら理解を深めた。
- 数学科：ソーシャルディスタンスを意識しながらのグループ学習で、互いの理解度を高め、深めることができた。ICT を利用し、理解を深めた。
- 理 科：「見通し」や「振り返り」の時間を有効に活用した。対話的な授業を通して、考える力を育てることができた。実験に関する制限がかかる中で、ICT を一層活用していく。
- 英語科：対話や発表を通じて協働的に学ぶ機会を引き出し、そこに ICT 機器の活用を取り入れた。個別最適な学習形態について ICT 機器の利活用を推進していく。
- 音楽科：音楽を楽しむという原点に回帰した授業を心掛けている。音楽が人にもたらす効果の大切さを感じている生徒が多い。
- 美術科：落ち着いて制作に取り組んでいる。創作活動を楽しみながら作業しているが、生活経験が少ないためか、道具の使い方に苦戦している生徒が多い。
- 保健体育科：授業の中で思考したことを発信させる場面を増やしていった。また、定期試験を廃止し、単元ごとにテストを行うようにした。
- 技術・家庭科：実践的・体験的な活動の経験が少ないように思われる。授業では、個々にカードを作り個に応じた対応ができるようにした。

3 2022年度 学年・教科等としての具体的取組

国語科

- ・生徒一人ひとりが主体的に考え、それを発言・発表・共有する場面をこれまで以上に設ける。
- ・3年間を通じて、副教材の漢字ワークを有効に利用し、漢字の習得につとめさせるなど、基礎の知識をつけさせる。

数学科

- ・1年では少人数指導の利点をいかし、細かい声かけと、適切な評価（指導と評価の一体）の達成を目指す。
- ・単元や章など、細かい小テストを行い、生徒の習熟度合いをつかむと共に、授業改善に生かす。

音楽科

- ・歌唱や器楽の演奏において、音楽表現を工夫してよりよい演奏を追及できるように必要な技能を身につけさせる。
- ・音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組めるような授業を展開する。

技術・家庭科

- ・生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫するし創造する力を育成する。

特別活動

- ・実践的な活動を通して自ら学び、考え、行動する力を育てる。
- ・キャリアパスポートを活用し、自己理解に基づいて主体的に将来設計しようとする態度を育てる。
- ・様々な場面で話し合い活動を充実させ、合意形成を図ったり、意思決定したりする力を育てる。

個別支援学級

- ・個別の指導計画に基づき、一人ひとりに応じた基礎基本が身につくよう、『繰り返し学習』を徹底する。
- ・体験的な活動を通して、小さな成功体験を積み重ねるとともに、学習したことを実生活に生かす力を育てる。

社会科

- ・単元ごとの小テストなどを行い、基礎知識の定着を図る。
- ・主体的、対話的な授業については、試行錯誤しながら実践ならびに改善を行う。

理科

- ・「見通し」と「振り返り」の時間を有効に活用することで、知識・技能の定着を図る。
- ・単元や分野ごとの小テストを行うことで、基礎学力や思考力の向上を図る。
- ・対話的な授業を通して、友達の考えと自分の考えを比べ、考える力を育てる。

美術科

- ・創作活動を楽しみながら、技能を高められるように生活に役立てることができる事例と結びつけながら、授業を展開する。
- ・3年間を通じて、身につけた力を主体的に応用し、作品制作を行える力を養う。

英語科

- ・小学校からの学びに連続性が生まれるように対話や小グループでの活動を取り入れる中で、コミュニケーションをとるために必要な知識・技能を身につけさせる。
- ・協働的な学びの場を設ける事で友達と表現方法を新しく広げられるよう展開していく。

総合的な学習の時間

- ・探究学習について推進し、協働的な学びの中から自らが課題を発見し、解決方法を見だし、表現していくことを学ぶ。
- ・また、ICT 機器のみならず、図書館や美術館・博物館などを利用して情報収集するために必要な知識と技能を身につけさせる。

保健体育科は「体育健康プラン」に、
道徳は「豊かな心の育成推進プラン」に記載。